



監督・原案：堤幸彦
 出演：広山詞葉／福宮あやの
 ／河野知美／佐藤二朗

truth～姦しき弔いの果て～

2022年／日本映画
 配給：ラビットハウス／72分

2022（令和4）年1月11日鑑賞

シネ・リープル梅田

◆コロナ禍が続く中、飲食業界、ホテル業界、観光業界は特に大変だが、映画製作も大変。プロデューサーが制作の企画を立ててくれないければ、監督も俳優も商売あがったりだ。そんな中、メジャーレーベルで話題作を次々と生み出してきた堤幸彦監督が65歳にして、還暦と古希の間の伊達や酔狂か、自主制作に挑戦！

過去49作の映画を監督してきた彼のはじめての自主制作映画になった本作では、文化庁の「文化芸術活動の継続支援事業」を活用して、日頃、自作に尽力してくれている仲間たちの企画に参加することに。そして、「同じ男性を愛した3人の女性が、彼の葬儀の夜に鉢合わせ」というテーマで、女性の本音を満載した本作を完成。

◆その努力や良し！しかして、名匠・堤幸彦監督50作目のメモリアル作品の出来は如何に？たしかに、『truth～姦しき弔いの果て～』というタイトルは興味を引く。そして、3人の女たちが銃弾のように飛び交わす明け透けな会話内容は絶品。また、そこに昨今話題の「精子バンク」のテーマを取り入れたのも「技あり！」だ。

◆精力絶倫の高名な芸術家（佐藤二朗）がある日突然、交通事故で死亡。葬儀の後に彼のアトリエに集まったのは、生前彼の愛人だった3人の女性だが、そのタイプはさまざま。九条真弓（広山詞葉）はふんわり系の女性、栗林マロン（福宮あやの）は高卒のヤンキー系シングルマザー、そして、小林さな（河野知美）は恵比寿のタワマンに住んでいる勝ち組医師だが、絶倫男は3人の中の誰を最も愛していたの？絶倫男の事故の直前に各愛人の留守録メッセージに残っていたという「大事な話」とは一体ナニ？

3人とも35歳前後だから、男の死亡を契機に己の人生を確立させることが不可欠。すると、そのための議論が激しくなるのは仕方なし・・・？

◆しかし、本作の核心となる女たちの会話劇のレベルは、本作は私には姦しいだけ・・・？『ドライブ・マイ・カー』（21年）と『偶然と想像』（21年）で快進撃が続く、濱口竜介監督の“会話劇”の面白さには、とてとても・・・。